ときわ会主催　徳野貞雄先生講演会　開催報告

テーマ　「令和のコメ騒動と百姓一揆？　社会と『食と農』に関する講演会」

　ときわ会では令和7年11月27日（木）、熊本大学名誉教授であり、「道の駅」の発案・命名者としても知られる徳野貞雄先生をお迎えし、講演会「令和のコメ騒動と百姓一揆？　社会と『食と農』に関する講演会」を、本校菁莪堂にて開催いたしました。
　当日は小雨がぱらつく天候ではありましたが、約 100 名の方にご参加いただきました。
　講演会では、近年話題となった「令和の米騒動」について、その背景にお米を作る人が急速に減っているという現実があることを、データとともにわかりやすくお話しいただきました。

　徳野先生は、「このままでは農家そのものがいなくなる可能性がある。」と警鐘を鳴らされ、これから私たちが直面する食糧難の時代を生き抜くためには、「かかりつけ医」ならぬ「かかりつけ農家」を持つことが重要だと力強く語られました。
　また、「人口は減っていると言われるが、比べる時代を変えれば増えている。」や、「今まで『経済発達』や『成長』が善とされていたけど、それが本当に正しいことか？」との問題提起に、ハッとさせられました。
　さらに若い世代に向けては、「死ぬな。」「人の役に立て。」「人と繋がれ。」という三つのメッセージを強調され、今の社会を「つながっているようで実はつながっていないスパゲティ型社会」と捉え直す必要性を述べられました。

　終始ユーモアを交えつつも、社会と食と農の現状を鋭く見つめた講演内容に、視点の置き方次第で社会の見え方が変わることに気づかされました。

講演後は輪になり、打ち解けた雰囲気の中で親睦会が開かれ、近い距離で講演の内容についてさらに深い本音のお話をお聞きすることができました。

《参加者の感想より》

・「普段聞けないような、本音のお話が聞けてよかったです。」
・「何を食べるではなく、喧嘩をしてでもいいから誰かと一緒に食べることが大切、など家族のありがたさを改めて感じる時間でした。」
・「歯切れよく、また、ストレートに食と農について核心をついた講演で納得感 200 倍でした。」
・「エネルギー満ち溢れた講演会で、知らない情報や先生の違う視点からの考え方など多くの学びがありました。」

ほかにもたくさんの声をいただきました。今後の参考にさせていただきます。

今回の企画にあたりご尽力いただいた先生方、ＰＴＡの皆様に心より感謝申し上げます。